

研究支援経費

研究支援経費成果発表会について

企画委員会委員 松村 佳子

■研究支援経費導入の経緯

教官研究費配分方法の見直しの一環として、個人の研究テーマに対して、その研究を支援するための予算枠が、平成十三年度より設けられました。これは科学研究費補助金や奨学寄付金などの外部資金とともに、大学内でも容易に申請でき、そして有効に使えることをねらいとしたものです。

研究支援経費の総額は、全学教官の研究費として当初に配分される金額の十パーセントをあって、実験系、非実験系からそれぞれ十件、六件を採択します。採択された研究に対しては、次年度当初にレジユメを用意して口頭発表をすることが義務付けられました。

■応募と採択

研究支援経費の交付希望者は、研究支援経費要求書に

- 一 研究題目
- 二 研究目的
- 三 要求金額
- 四 研究の実施計画
- 五 特色（独自性・将来性・社会性）
- 六 現在の研究内容または当該分野の研究内容との関連

を記入して企画委員会にて応募することとしました。平成十三年度の応募件数は四十一件、平成十四年度は三十三件でした。

採択にあたっては、企画委員会委員全員により、提出された要求書及び応募者に対するヒヤ

リングを行い、その際に、次の評価観点から五段階評価をし、評価点の高い順に採択することになりました。

- ① 研究の進展に有効であること。
- ② 目的、目標が明確であること。
- ③ 計画に具体性を有すること。
- ④ 独自性、将来性、社会性等の特色があること。

その結果、採択件数は、両年度ともに十六件でした。

■研究成果発表会

平成十三年度の研究支援経費による研究成果発表会は、平成十四年四月二十四日（水）に行われ、採択された十六件全てについて、デモンストレーションや、OHP、コンピュータを使った映像等を用いて、専門領域が違う参加者にも分かりやすく説明がなされ、質疑応答がなされました。

同じ大学にいても専門が違っていると、お互いの研究について交流しあう機会が少ないのが現状ですが、この発表会を通じて、それぞれの先生方の研究について理解を深めることができ、非常に有益であったと感じています。

それらの中から一部を写真で紹介いたします。



山岸公基・大山明彦「狩野芳崖筆「奈良官遊地取」の研究と公刊」より「極楽院山越阿弥陀如来図」



西田史郎「地域自然誌資料の緊急収集―消え行く露頭の記録―」より「粕田の傾斜不整合」

■今後に望むこと

平成十三年度については、研究成果発表会を終えましたが、初めてのことであり、経費等の配分額や、採択の仕方など、反省すべき点がいくつか残ります。しかしながら、修正を加え柔軟な見直しを行った上で、平成十四年度の支援経費の採択を決定しました。有効に使っていたら、研究を進展させることに役立つシステムとして定着することを期待しています。